《２０１５年９月　月例会報告》

＊＊

スロバキアへ行ってきました

－第 10 回　国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム報告－

中塚義実（筑波大学附属高校／NPO 法人サロン 2002 理事長）

＊＊

【日　時】2016 年 9 月 30 日（水）19：00～21：10
【会　場】筑波大学附属高等学校 3F 会議室
【テーマ】スロバキアへ行ってきました！
　　－第 10 回国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム報告
【演　者】中塚義実（筑波大学附属高校／NPO 法人サロン 2002 理事長）

【参加者（会員・メンバー）7 名】安藤裕一（筑波大学ハンドボール部 OB）、
小池靖（サッカースポーツ少年団）、嶋崎雅規（国際武道大学）、白井久明、
田中俊也（三日市整形外科）、中塚義実（筑波大学附属高校）、吉原尊男
【参加者（未会員）12 名】阿部靖子（筑波大附高　保護者）、井内晴巳（中京大学附属中京高 保護者）、
内田裕之（自由学園男子部）、川島健司（読売新聞社）、髙橋正紀（岐阜経済大学）、
高橋眞由美（筑波大附高 保護者）、田原淳子（国士舘大学）、遠山諒（国際基督教大学 3 年）、
内藤智（中京大学附属中京高校）、古里志津代（自由学園 保護者）、皆川宥子（日本女子大 2 年）、
和田恵子（日本オリンピックアカデミー）、
【報告書作成者】中塚義実
注）参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

＜目　次＞

はじめに－PO 法人サロン 2002 のあゆみ＆自己紹介 2
Ⅰ．第 10 回大会へ向けて－準備過程 3
Ⅱ．第 10 回大会の概要 7
Ⅲ．ウィーンにて 8
Ⅳ．ピエスタニ（スロバキア）にて－第 10 回大会の実際 11
Ⅴ．感じたこと、考えたこと 23

はじめに－NPO 法人サロン 2002 のあゆみ＆自己紹介

１．NPO法人サロン2002の概要

１）“志”　（オフィシャルサイトより）

「スポーツを通してのゆたかなくらしづくり」が私たちの「志」です。

文化としてのスポーツを日本に根付かせるとともに、さまざまな社会問題をスポーツのチカラで解決すべく、仲間とともに考え、行動していきます。

２）あゆみ

前身となるスポーツ文化研究会サロン2002は1997年度から活動。さらにその前身の研究グループは1980年代後半から、おもにサッカーの指導者・研究者の研究会として発足。

３）事業とつながり

月例会は毎月､公開シンポジウムは年1回開催｡精力的な活動を経て全国ネットワークを築いてきた。

２．NPO法人化初年度（2014年度）の動向

１）法人化へのあゆみと現状

・2014 年 5 月 31 日に設立総会。10 月 14 日に都から認証され 10 月 24 日に登記完了。特定非営利活動法人として再スタート

・スポネットメンバー（ゆるやかなネットワーク）は 95 名。うち NPO 会員（意思決定に関わる）は 30 名。法人化以前と変わらず“ネットワーク”が財産。身分や立場を越えたつながりを大事にしたい。サッカーだけでなくスポーツ全体、他の文化領域への広がりも志向している。

２）事業

・月例会は毎月、公開シンポジウムは年 1 回開催

6 月に、NPO として 1 回目となる「キックオフイベント」を開催。今回は通算第 229 回月例会。

テーマはサッカーがらみが中心だが、ラグビーをはじめ、他のスポーツへも広がっている。

2015 年 7 月には「スポーツを通したゆたかなくらし」についての公開シンポジウムを開催。

・「共催」のかたちで事業の担い手に

① 賀川浩さん関係（神戸と東京で祝賀会と講演会）
FIFA 会長賞を受賞された、会員の賀川浩さんの祝賀会と講演会を共催

② ユースフットサル選抜トーナメント 2015
高校生年代の全国フットサル大会を、日本フットサル連盟と共催

③ クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2015
国際 YF につながる高校生年代のオリンピック教育フォーラムを、筑波大学と共催

３．自己紹介

まずは参加者全員が自己紹介。

NPO サロン 2002 会員・メンバーからはオリンピック教育との関わりや期待感が述べられた。

派遣生徒の保護者からは、生徒が「帰りたくないと言っている」（スロバキアからのメール）、「大変充実していたことがわかる」（帰国後の様子）、一方で「詳しく話を聞けていないので今日はとても楽しみです」とのコメントがあった。

派遣校の教員、派遣母体となった日本オリンピックアカデミー（JOA）関係者、前回の国際 YF 参加者、メディア関係者など、参加者は多種多様であった。

筑波大学附属高校の教員は、定期考査の準備等で忙しかったのか、参加者はなかった。

Ⅰ．第 10 回大会へ向けてー準備過程

前回までは「筑波大学附属高校から 2 名の生徒と 1 名の教員を派遣。筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）が派遣費用を出す」形であった。なお現地の滞在費は、主催者である国際ピエール・ド・クーベルタン委員会（CIPC）の負担である。

それが今回から、フルメンバーの 7 名を出せることとなり、どのように選考するか、またこれを機にどのようにオリンピック教育を国内に広げていくかが重要な課題であった。

さまざまな組織と協議の上、最終的には CORE 主催で「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2015」を開催、その参加者から 7 名を選考する形をとった。

１．クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2015

Jigoro Kano Memorial　Japan Pierre de Coubertin Youth Forum 2015

【目　的】
　１）オリンピック教育：日本の高校生にオリンピック・ムーブメントやオリンピズムを理解させる
　２）選考：第 10 回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムの参加者を選考する
【主　催】　筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）
【共　催】　特定非営利活動法人サロン2002（NPO法人サロン2002）
【後　援】　特定非営利活動法人日本オリンピックアカデミー（NPO法人JOA）
【協　力】　日本ピエール・ド・クーベルタン委員会
【期　日】　2015年3月13日（金）～15日（日）
【会　場】　筑波大学および筑波研修センター
【参加校】　高校生　男子15名、女子15名、計30名（男子17名の予定だったが2名不参加）
　・筑波大附属高校　…　男3名、女6名、計9名（男子1名、インフルエンザのため不参加）
　・筑波大学附属駒場高校　…　男3名、　計3名（1名不参加、1名早退）
　・筑波大学附属坂戸高校　…　男3名、　計3名（1名、急性胃腸炎のため初日不参加）
　・帝京高校　…　男1名、女3名、計4名
　・自由学園　…　男3名、女3名、計6名
　・中京大学附属中京高校　…　男2名、女3名、計5名

２．選考と派遣

CORE と NPO サロン 2002 が、JOA の協力を得て選考
＜派遣生徒（7 名）＞
　筑波大学附属高等学校　…　阿部道彦（3 年男）、平田東夢（3 年男）、高橋優衣（2 年女）
　自由学園　…　原嶋百香（女子部高等科 2 年）、古里光（男子部高等科 2 年）
　帝京高等学校　…　池田和真（2 年男）
　中京大学附属中京高等学校　…　井内理紗子（3 年女）
＜引率教諭（1 名）＞　※CIPC 副会長
　筑波大学附属高等学校　…　中塚義実　国士舘大学　…　田原淳子
＜派遣母体＞　日本ピエール・ド・クーベルタン委員会（CJPC）
　注）特定非営利活動法人日本オリンピックアカデミーの公印で派遣文書作成

（報告書より一部引用）

この企画案の初出は 2014 年 3 月。JOA クーベルタン部門、CORE 運営委員会、NPO 法人サロン 2002 理事会等で示し、意見を求めた。当初は 2014 年 8 月開催を検討していた。国際 YF 派遣生徒への指導期間を確保する観点からである（第 9 回大会派遣生徒は、国際 YF の前年 11 月には決定し準備に取り組んでいた）。開催候補地は筑波大学、東京都内（筑波大学東京キャンパスと筑波大学附属高校）、長野県立科町（筑波大学附属高校の寮／中京大学の寮）などが挙げられていた。準備期間の足りないということで 8 月開催を断念し、3 月 13～15 に開催することを 7 月に決定、改めて仕切り直しをし、CORE

主催で筑波大学にて開催することとなった。

参加校については、当初、筑波大学附属高校が幹事校を務めるスーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）に広く声をかけることも検討されたが、その場合、どの程度の反応があるのかが全く読めないことから断念。個別にあたっていく方法を採用することとした。

まずは筑波大学の附属学校から、駒場と坂戸に声をかけた。

NPO 法人サロン 2002 理事の嶋崎雅規氏の勤務校（2014 年度まで）であった帝京高校には早くから声をかけていた。エリートアカデミー事業として NTC（ナショナル・トレーニング・センター）で合宿生活を送る生徒が通う同校では、オリンピック教育を総合的な学習の時間に行っていたことが背景にある。インターナショナルコースの生徒が対象として想定された。

準備の初期段階から中京大学の協力は得られそうだったので、同附属高校への打診も早い段階から行っていた。返事が来たのは 2015 年 1 月末であったが…。

自由学園はユニークな教育で知られているが、その教育理念はオリンピズムに通じるものがあるとかねてより感じていたこともあり、11 月に同校とサッカーの練習試合をした際、旧知の内田裕之先生に話を持ちかけ、学校側と掛け合ってもらった。

この他にも、東京都立高校を含めいくつかの学校に打診したが、いずれも年度途中であることや日程的な問題などがネックとなり、派遣できないとの返事であった。こうしてリストアップされた学校から 30 名の生徒が参加することになり、CORE と NPO 法人サロン 2002 のスタッフが中心となって準備を進め、「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2015」として開催した。この行事の詳細は、2015 年 4 月の月例会報告をご参照いただきたい。

終了後、主催者の CORE と NPO 法人サロン 2002 で合同会議を持ち、派遣生徒の選考にあたった。筆記テストの採点は JOA クーベルタン部門のメンバーが行った。

総合的に判断した結果、7 名の生徒を選考、3 月末日に当該校教諭に連絡、本人と保護者の承諾を経て正式に派遣生徒として準備を進めることとなった。

３．準備会（１．２．は引用箇所より）

国内 YF の準備を進めていた 2 月ごろから、国際 YF を主催する CIPC から定期的にレターが届き、国際 YF の準備状況が把握できた。筑波大学附属高校生だけで派遣していた前回までは、昼休みや放課後に集まることが可能だったが、4 校から 7 名を派遣する今回はそうはいかない。生徒同士がメーリングリストや「ライン」でつながっているようではあったが、自由学園の寮生のネット環境が悪く（平日使用禁止等）、互いの連絡方法等について早期に集まって打ち合わせをする必要があった。

そこでまず 4 月 26 日に第 1 回の準備会を開き、今後の展望と準備会の期日を確定し、各自で進めることと全体で集まって進めることを確認した。筑波大学附属高校で 90 分程度の打ち合わせの後、筑波大学東京キャンパス裏の占春園にある嘉納治五郎像前にて記念写真を撮った。

2 回目は自由学園女子部、3 回目は同男子部が会場である。都内とは思えない恵まれた環境で、落ち着いた雰囲気の中で準備会を進めることができた。遠方から参加しなくてはならない中京大学附属高校からは毎回教員 1 名が生徒を引率した。各学校のご理解とご協力があっての準備会開催であったことを付記しておきたい。

以下は配布資料の引用と若干の補足である。

１）4 月 26 日（日）15：00～16：45　於筑波大学附属高校＆占春園

・顔合わせ　…　自己紹介と抱負を語った

・旅程の把握　…　往復のフライトと保険等について業者が説明。費用負担については各学校で

・課題の確認　…　クーベルタン賞をめぐる諸活動と事前課題の確認
・嘉納治五郎像前にて記念写真

２）6 月 7 日（日）12：00～17：00　於自由学園女子部

・自由学園見学　…　説明を受けながら約 30 分、自由学園の敷地内を散策。すばらしい環境にみな驚愕！
・講義「世界と日本の体育・スポーツのあゆみ」…資料に沿って大きな流れを学習した（講師は中塚）
・ポスター制作（A3 判 4 枚以内）　…　国ごとにつくってくるポスターのアイデアを共有
・ミニエキスポのイメージづくり　…　「日本の夏祭」にすることは決定
・日本の伝統的なダンスの選定　…　ソーラン節（現代版）を披露する。まずは各自で練習

３）6 月 28 日（日）12：00～17：00　於自由学園男子部

・講義「近代オリンピックのあゆみ」「日本のスポーツ百年（DVD 学習）」…資料と映像で学習（講師は中塚）
・ポスター制作（A3 判 4 枚以内）　…　おおむね完成
・ミニエキスポの準備
・ソーラン節の練習　…　各自が練習してきたものを合わせたが不十分。盆踊り（東京音頭）の練習開始

４）7 月 27 日（月）午後（池袋周辺。都内の生徒のみ）

・午前中、筑波大学附属高校では派遣生徒と保護者の打ち合わせ。午後に都内の生徒が集まった。

注）ポスター制作とは次のとおり（クーベルタン賞のなかみを明記した文章より）

Pre-Forum: POSTER EXHIBITION

Create a poster/collage that represents this quote from the IOC –‘Sport has its own language,and everyone can speak it.

It’s a language of hope, where anything is possible’(Restrict size to A3 using any medium, max. 4 posters per group)

４．出発までの準備

7 月末の時点で「しなければならないこと」「しておいた方がよいこと」は次のとおり。多岐に及ぶ。準備段階が大変であった。

１）ボランティア活動をして校長先生の証明をいただく

クーベルタン賞にある Community Service。各自が実施し各校の校長先生に説明、実施報告にサインをいただく。

被災地支援、中学生へのスポーツ指導、スポーツイベントのボランティアなどにそれぞれが取り組んだ。

２）そろいのウェアの用意

・法被　…　ソーラン節を演じる際に全員着用。筑波大学のつくば国際スポーツアカデミー（TIAS）より貸与

・そろいのジャージ　…　日本代表としての統一感を出すために作成。CORE の提供による。同事務局の大林太朗氏がご尽力くださった。上着の背中に「精力善用　自他共栄」を入れる案を中塚は持っていたが、生徒の反対を受け、大会名称の英文表記が入ることになった。そうなってよかった。
・ポロシャツ　…　嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センターよりご提供いただいた。

3）交換するプレゼントの用意

・CORE より…『オリンピック教育　第 3 号（英文）』（各校 1 冊）、嘉納治五郎クリアファイル（全員）
・嘉納治五郎センターより…嘉納治五郎 DVD（各校 1 冊）
・JOA より…ロゴ入りペン（派遣生徒一人につき 10 本）
・スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムより…トートバッグ、ロゴ入りペン、ステッカーなど

これらを手分けして持参。ウィーンでの前泊時に、国別（学校別）にトートバッグに分ける作業を行った。

その際、「日本チーム紹介スライド（A4 判裏表 1 枚）」は嘉納治五郎クリアファイルに入れ、参加者全員に行き渡るようにした。

4）保護者会と誓約書

・CIPC に提出する誓約書を、事前に郵送または成田空港へ持参。

5）“日本代表”派遣のための体制づくり

・派遣母体は、CIPC の下部組織と位置付けられる「日本クーベルタン委員会（CJPC）」。JOA クーベルタン部門が兼ねる形であったが、派遣分自体は JOA 名で発行。中塚は JOA からの依頼を受けて引率する形に。

6）宿泊の手配と移動の確認

ウィーンでの2泊（業者）およびウィーンからスロバキアへのバス移動（CIPC）について連絡調整

7）その他

・第 10 回大会ウェッブサイト掲載用のプロフィール作成（「日本チーム紹介スライド」を転用）

8）最も重要なのは…

「クーベルタン賞」をめぐるコンテストなので、筆記試験やスポーツテストへ向けての事前学習、トレーニングは必須。

また、英語でのコミュニケーションが中心になるので、英会話スキルの向上を図ることも重要。

これらは各自で取り組むしかない。

第1回準備会（4月26日）後、占春園の嘉納治五郎像前にて

◆参考：クーベルタンアワード◆

１）Community Service　…　地域貢献活動を事前に行い、校長先生の承認を得る
２）Olympic Knowledge Test　…　オリンピックに関する筆記テスト
３）SportsTests　…　リストアップされたすべての種目に挑戦
４）Arts Performance　…　10のワークショップから選択
５）Olympic Values　…　事前にポスター作製。現地では3つのテーマでグループ討議

Ⅱ．第 10 回大会の概要

第 10 回大会は、スロバキアの小都市ピエスタニで開催された。最終的に 19 か国 21 校が参加した（ポーランドとザンビアは、リストには入っていたが参加できなかった）。フルメンバーは 7 名とされているが、各州代表が参加するオーストラリアからは 9 名の参加が認められている。今回は「オブザーバースクール」という名称は用いられず、みなが「クーベルタン・ネットワーク」の一員であるという位置づけであった。初参加はブラジル、アルゼンチン、南アフリカ、ジンバブエで、いずれも生徒 2 名であった。イタリアとフランスも 2 名だった。

引率教員はおなじみの人が勢ぞろい。私もすでにおなじみの一人となっている。

【開催地】開催都市：ピエスタニ（スロバキア）
主催校：Gymnázium Pierre de Coubertin Piest’any

【参加国（ABC 順）】アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ブラジル、チェコ、エストニア、フランス、ドイツ、イギリス、ギリシャ、イタリア、日本、ケニア、マレーシア、ノルウェー、ロシア、南アフリカ、スロバキア、ジンバブエ

※19 か国 21 校。参加生徒 110 名、ボランティア約 30 名

1）Argentina　…　Colegio Padre Ramon De La Quintana
2）Australia　…　Winners of the Australian Coubertin Award
3）Austria I　…　Pierre de Coubertin Bundes-Oberstufenrealgymnasium
4）Austria II　…　Don Bosco-Gymnasium Unterwaltersdorf
5）Brazil　…　Escola de Educação Básica da URI Erechim
6）Czech Republic　…　Gymnázium Pierra de Coubertina Tábor
7）Estonia　…　Ülenurme Gümnaasium
8）France　…　Winners of the Coubertin Pupils’ Prize of the region of Burgundy
9）Germany I　…　Schul- und Leistungssportzentrum Berlin Coubertin-Gymnasium
10）Germany Ⅱ　…　Pierre de Coubertin-Gymnasium Erfurt
11）Great Britain　…　William Brookes School Much Wenlock/England
12）Greece　…　1st Gen. Lyzeum Pierre de Coubertin Pallini (Athens)
13）Italy　…　Liceo Statale “Giuliano della Rovere”
14）Japan　…　Winners of the National Coubertin Youth Forum selected by the Japan Pierre de Coubertin Committee
15）Kenya　…　Kipkeino School
16）Malaysia　…　Senior Methodist Girls School Kuala Lumpur
17）Norway　…　Gausdal videregående skole Pierre de Coubertin
~~18）Poland　…　Niepubliczny Zespól Szkól Mistrzostwa Sportowego PZPS~~

19）Russia　…　Middle School N° 211 Pierre de Coubertin
20）Republic of South Africa　…　The Hague Primary/Primêr
21）Slovakia　…　Gymnásium Pierra de Coubertina Piešt'any
~~22）Zambia　…　Olympic Youth Development Centre Lusaka~~
23）Zimbabwe　…　St. Georges College

【宿泊】ホテルアカデミー　Hotel Academy
Hotelová akadémia Ľudovíta Wintera
Stromová 34、92101 Piešťany、Slovakia
ホテルスタッフ育成のための職業学校でもある。高卒後の学生が現場での実践を通して学ぶ。
参加者は異なる国の人と 2～3 人の相部屋。シャワーは 4～5 人で共用。
食事は毎回充実。毎食何らかの「ポテト料理」が出てきたのが印象的。
引率教員も 2 名で相部屋。今回もギリシアの先生（コスタスさん）と相部屋になった。

【主な日程】
8 月 27 日（木）　11：20 成田～15：20 ウィーン（約 11 時間）　※時差は 7 時間
8 月 28 日（金）　ウィーン市内観光、パフォーマンス準備など
8 月 29 日（土）　バスでウィーン～ブラチスラバ～ピエスタニへ(約 2 時間)。ディナー
8 月 30 日（日）　市内観光、障がい者スポーツの体験、開会セレモニー
8 月 31 日（月）　ｱｰﾄﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ①、グループ討議①、知識テスト、miniEXPO
9 月 1 日（火）　水泳、スポーツテスト、ｱｰﾄﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ②、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ②、スロバキアダンス
9 月 2 日（水）　サイクリング、ｱｰﾄﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ③、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ③、アートパフォーマンス発表会
9 月 3 日（木）　クロスカントリー、古城観光、市街パレードとパフォーマンス
9 月 4 日（金）　カヌー体験とビーチ活動、閉会セレモニー、パーティ
9 月 5 日（土）　早朝に出発、バスでピエスタニ～ブラチスラバ～ウィーン、13：20 ウィーン発
9 月 6 日（日）　7：00 成田空港着（約 11 時間のフライト）、解散

Ⅲ．ウィーンにて

約 11 時間のフライトでまずは中欧の古都ウィーンへ。くそ暑い東京を離れ、涼しいヨーロッパを期待していたがとんでもない。「異常気象」と地元の方が言うほどの熱気であった。

ホテルは、ウィーン中央駅至近の便利なところ。すぐ近くにベルヴェデーレ宮殿がある。「トルコ軍からウィーンを救った英雄プリンツ・オイゲン公（1663～1736 年）の夏の離宮」（『地球の歩き方』）とのこと。われわれのホテルの名前も「HOTEL PRINZ EUGEN」である。

ウィーン中央駅からホテルへ。とても暑かった！

ホテル近くにはベルヴェデーレ宮殿

ここで 2 泊し、ウィーン観光を楽しむとともに、事前にやり残したこと（ソーラン節の練習とポスター作成など）をやり、来るべき 1 週間のフォーラムに備える。

8 月 28 日は、朝のジョギングからスタートした。阿部・平田の 3 年生男子と原嶋が参加した。古里は一人でジョギングしたようだ。井内・高橋の女子 2 名と池田はぐっすり休んでいた。

この日はウィーン市内観光。まずは中心地へ。海外経験豊富な者もいるが、そこは高校生。妙なテンションではしゃいでいる。

国立オペラ座の前で。
夜はここでモーツァルトのコンサート！

わからないことは、インチキ英語でいいから地元の方に尋ねてみる。私が率先して「コミュニケーションの何たるか」を示すと、生徒たちも「なーんだ。その程度の英語でも通じるのか」と安心したのか、徐々にほぐれてきたようだ。大事なのは“慣れ”であり、“大阪人気質”は有効である。

リンク（中心街を取り巻く元城壁地帯）から離れ、トラムとメトロを乗り継いでシェーンブルン宮殿へ出かけることにした。

シェーンブルン宮殿。メチャクチャ広い！

「空き地」はいたるところにある。そこでソーラン節の練習。欧州人が不思議そうに見ていた（一緒に踊る人も）。

ハプスブルグ家の歴代君主が主に離宮として利用していた世界遺産である。時間があればじっくり見て回りたいところだが、そんな余裕はない。また、館内を見て回るツアーはかなり高くつく。とにかくこのでかい宮殿の端まで行き、どこかで空き地を見つけて「ソーラン節」の練習をするというのがこちらの意図であった（生徒たちは「冗談でしょ」と思っていただろうが、本気である）。

かなり暑い一日で、だだっ広い宮殿をてっぺんまで歩き、さらに激しいダンスの練習。水は確保していたがすでに底をついている。何名かは脱水気味で、帰りは相当疲弊していた。軽い熱中症である。

体調を整えてスロバキアへ向かうはずが、体調不良になったら元も子もない。

いったんホテルに戻って休憩（元気な生徒は再び外へ）。そして夜の活動に備えた。

この日の夜に、オペラハウスでモーツァルトのコンサートがあるというのを前日に聞いており、全員で行くことにしていた。高校生には厳しい出費だが、お土産を削れば何とかなる。生徒は C 席（49 ユーロ）、私は A 席（75 ユーロ）。女子は浴衣を着る練習でもある（うまくできなかった者もいる。けどここで失敗しておいてよかった）。

会場はほぼ満員・日本語のアナウンスもあった

オーストラリアのジェームスさんと

2 階前方のブース。隣の隣に東洋人風のおじさんがいる。オーストラリアから来た「ジェームズ」さん。65 歳で定年退職し、時間がたっぷりあって世界中を奥さんと旅行されているそうだ。この日は奥さんが体調不良で、会場へは一人で来られていた。だから最前列（A 席）がひと席あいている。実は C 席の高校生たちも、平田・高橋・井内は同じブースの 2 列目（ほんまは 3 列目？）だった。最前列にあきができたので高橋が座る。何とラッキーな奴！

コンサートがはじまる。舞台上の演奏者はみなモーツァルトのような頭をしている。そういうエンターテインメント。指揮者の動きが楽しいしためになる。オーケストラを盛り上げ、会場全体に気を配りながらの指揮は素晴らしい。あっという間に前半の 50 分が経過した。

休憩時間はジェームスさんとワインを楽しみ後半戦へ。引き続きモーツァルトの曲。そしてアンコール。まず 1 曲。次の 2 曲目は「美しき青きドナウ」。これをウィーンで聞けるのは幸せ。最後は「ラデツキー行進曲」。行きの飛行機でウィーンフィルのニューイヤーコンサートの映像を見てきたので、おそらく最後はこれだろうと思っていたらその通りだった。会場全体が大きな拍手と小さな拍手で演奏に参加する。とても楽しい！こういうコンサートはいい。

ジェームスさんとも別れ、生徒とともにホテルへ戻る。明日はいよいよスロバキア。もろもろの確認をして生徒を寝かせ、私は再び夜の街へ。１軒だけあいていたバーのカウンターに座り、隣に座った若者と話をする。空手をやっているオーストリア人らしい。日本のことにすごく興味を持っている。ウィーンのバーでオーストリア人と「残心」の話をするとは思わなかった…。

翌 29 日は、午前中ゆっくり過ごす。生徒はポスターを完成させ、ソーラン節の練習をし、あとは自由行動。お土産を買いに行く者もいればホテルでゆっくり休んで心の準備をしている者もいる。昼過ぎにロビーに集合。いよいよ出発。

CIPC 副会長の田原淳子氏（国士舘大学）も前日からウィーン入りしており、ウィーン国際空港で合流することにした。空港にはすでにザルツブルグの学校が来ており、ロシアが合流しバス移動。約 1 時間でブラチスラバ空港着。フランスの生徒をピックアップして更に 1 時間。あわせて約 2 時間で目的地に到着した。

ホテルアカデミーに到着

Ⅳ．ピエスタニ（スロバキア）にて－第 10 回大会の実際

宿舎となったホテルアカデミーは、実地研修しながらホテルの従業員を育てる職業学校。高校生は 2～3 名ずつの相部屋で、シャワーは、共通の入口を使用する 2 部屋の共同使用なので、とくに女子は大変だったようだ。教員も二人部屋。相方はギリシアのコスタスさん。前回も同室だったおなじみの明るいおじさんである。前回はエストニアのオレフさんも含めた 3 人部屋だったが、オレフさんは今回、隣室であった。ケニアのロジャーさんなど、おなじみの人たちとの再会が楽しい。

食事は充実していた。毎食必ずポテトが出てくる。高校生たちも「また出た！」という感じではあったが、おいしいのでまったく苦にならない。座席は同室同士で割り当てられていた。食事の場は社交の場でもある。

以下、時系列でできごとを追っていく（本文末のスケジュール表もご参照いただきたい）

多国籍で楽しむ食事。ここも社交の場

食事は充実。ポテトがうまい！

◆8 月 30 日（日）　市内観光、障がい者スポーツの体験、開会セレモニー

目覚まし時計は 6：30 にかけていたが、6：00 には教会の鐘が鳴り、それで何となく目が覚める。7 時にホテル玄関に集合してジョギング。近くの緑ゆたかな広い公園が気持ちいい。

公園に行く途中に、スポーツクラブらしきところがあって気になった。後日、時間ができたときに探検してみると、サッカースタジアムであった。普段はメインスタンドの裏側を見ていたわけで、中に入ってみると芝生がきれいな、こじんまりしたスタジアムである。ビブスを洗濯していたおじさんに聞いてみると、スロバキアリーグ 2 部所属の PFK（ピエスタニ・フットボールクラブ）のホームスタジアムらしい。ちなみに、ホテル近くの雑貨屋のおじさんは、このクラブの元サッカー選手だそうだ。いずれもスロバキア語しか話せないおじさんたちだが、言いたいことは何となくわかる。

ホテルのすぐ近くにあるサッカー場。メインスタンドの裏側を横目で見ながら公園へ行く感じ。

PFK（ピエスタニ/フットボールクラブ）のホームスタジアム。スロバキアリーグ 2 部所属らしい。

ヴァー川にかかる橋のたもとにある「杖を折る人の像」の前で

ホテルに戻り、ミュラー会長の講義

食事をして支度を整え、まずはピエスタニ市内の散策と博物館訪問。人口 3,000 人の小さな町は、温泉治療で有名だそうだ。街のシンボルは「杖を折る人」の像（正式名称はわからない）。温泉治療のためしばらく逗留した人が、帰るときには杖がいらなくなったことを表しているらしい。しかし温泉街ではあるが、日本のそれとは趣が異なる。温泉を楽しめるのは上流階級の人たちで、利用料もかなり高く、市民が楽しんでいる様子はうかがえない。温泉好きの私もスパを楽しむことはできなかった。

主催校へ到着。翌日のスポーツテストの練習や、体育館で自由に遊んで時間を過ごした。

一度ホテルへ戻り、ミュラー会長による講義「クーベルタンとオリンピック」があった。ツアーと講義は、弐つのグループに分かれて交替制で展開していた。

昼食をとって再び町へ。いよいよ主催校であるピエスタニのクーベルタンスクールへ向かう。ホテル、学校、スポーツ施設がいずれも歩いて行ける範囲にあるので非常に便利である。

学校はそれほど大きくはないが、60m 走、走幅跳。バスケットボールの連続ボード当てはすべてここで行われる。スポーツテストへ向けての練習をやったり、体育館で卓球やボルダリングで遊んだりして時間を過ごす。最初はためらいがあった日本の高校生 7 名も、体を動かすうちに少しずつほぐれてきたようだ。いろんな国の人たちとの交流が始まっている。

もう一つの体育館では、障がい者スポーツを体験した。アイマスクをして、鈴の入ったボールを用いた 3 対 3 のサッカー型ゲーム。履いている靴を使ってのボッチャ。ペアをつくって一方がアイマスクをした状態でのかけっこなど、いずれも簡単にできる障がい者スポーツ体験であった。難しく考えることはない。工夫すればどこででも簡単にできる。

ここでも国を越えて交流することができた。まだ正式な開会前だが、高校生たちはすでに仲良しになっている。

卓球で国際交流。ボルダリングにも挑戦。
体育館にはクーベルタンの写真が。

全員が障がい者スポーツを体験した

ひと通りスポーツ体験を終え、ホテルに戻る。フォーマルな衣装に着替えて国旗を持って､いよいよオープニングセレモニーである。参加校の紹介で、日本は全員で「礼」をして自国の文化をアピールした。スロバキアの音楽やダンスの披露もあり、いよいよ始まるぞという感じがした。

かなり盛り沢山な一日である。明日からの英気を養うべく、大人たちは近くのパブに繰り出した。こじんまりとしたすてきなパブである。主催校のミラ先生が案内してくれた。

オープニングセレモニー

◆8 月 31 日（月）　ｱｰﾄﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ①、グループ討議①、知識テスト、miniEXPO

午前中は、アート・ワークショップ。過去の大会では学校ごとに 7 分間のパフォーマンスを披露する形だったが、今回は音楽や絵画、ダンスや演劇など 10 のワークショップから選択し、いろんな国の人たちとともに作品をつくるものとなった。この方が互いの交流につながるし、事前準備の負担も軽減するので良いと思った（ワークショップ一覧は本文末参照)。

午後からはクーベルタン校に移動してディスカッション。全部で 3 回あったディスカッションのテーマは次の通りで、いずれもワークショップのグループ単位で、英語で行われた。

１）The Olympic Spirit

Pierre de Coubertin stated that:‘The Olympic Spirit is neither the property of one race nor of any age’.

Discuss:

- What do you understand to be the Olympic Spirit?
- How do the Olympic Values of Respect, Excellence and Friendship constitute (make up) the Olympic Spirit?
- What examples of the Olympic Spirit have you seen at recent sporting events?

２）Discussion Topic 2 ‘SPORT Is About Building Bridges’

a) Show DVD clip ‘Celebrating the Power of Sport’

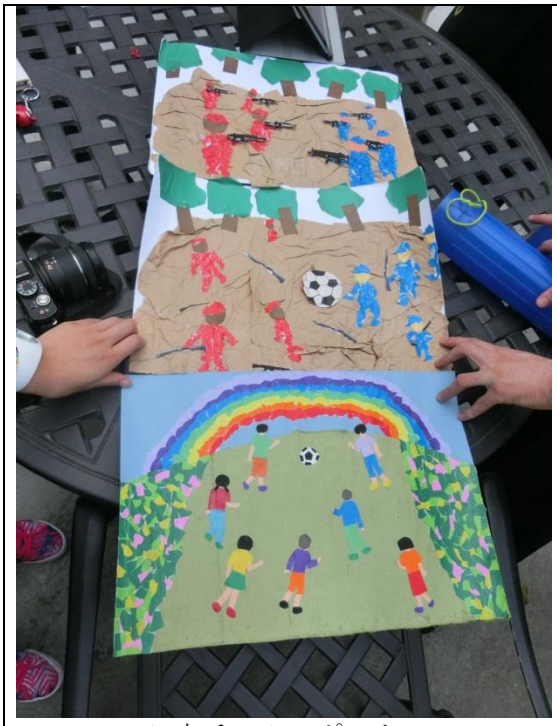
b) The IOC President, Thomas Bach, has stated that: ‘Sport is based on non-discrimination. Sport stands for understanding, respect and dialogue. Sport is always about building bridges. Sport is never about erecting walls.’

Discuss:

- how sport unites us
- how sport has changed YOUR life or YOUR community.

３）Discussion Topic 3 ‘PEACE Begins With Me’ (OVEP Manual)

Discuss the quotes regarding living a life of peace, and determine as a group, some actions/strategies which you could use in your own life.


日本チームのポスター

これに加え、各参加校は事前に、‘Sport has its own language,and everyone can speak it. It’s a language of hope, where anything is possible’のメッセージに即したポスターを A3 判 4 枚以内で作成した。各校のポスターはフォーラム期間中、会場に掲示された。

知識テストの様子

ディスカッションの次はいよいよ知識テストである。約 1 時間のテストは、古代ギリシアの祭典競技会、クーベルタンの生涯や近代オリンピック・パラリンピックなど、さまざまな観点から出題されていた。過去問もあるし、事前学習をしっかりしてくれば大丈夫なはず。基準点をクリアできなかった生徒は後日、追試験。幸い日本人は全員合格であった（ギリギリの者もいた）。

あいている時間、校内を散策した。廊下に趣向を凝らした顔写真入りのパネルが何種類も貼ってある。どうやら卒業時に、クラスの記念にとパネルを作って置いていくようだ。卒業生が来校したときに、自分たちのクラスのパネルが貼ってあるとうれしいだろう。定期的に展示パネルを交換しているという話を聞いた。

今回のボランティアには、2011 年の北京大会、2013 年のリレハンメル大会に参加した、同校の OB・OG もいる。見覚えのある青年に声をかけたら彼らも私のことを覚えてくれていた。彼らのクラスのパネルの前で写真を撮った。

左の二人は卒業したばかり。右は 2011 年の参加者でブラチスラバの大学で下宿生活をしている

ホスト校の責任者のミラ先生は、かつて水上スキーでオリンピックに出場したこともあるベテランである。体育教官室でいろいろ話を聞いた。スロバキアでは、ドイツと同様、教師は 2 教科を担当することになっているらしい。ミラ先生は体育と地理を担当している。時間割を見せてもらったが、朝から夕方までかなりタイトに埋まっている。どこの国も先生は大変である。

ミニエキスポでは各国それぞれ趣向を凝らしている。日本のブースも大盛況

ホテルへ戻り、夕食をとり、いよいよミニエキスポの準備開始。日本のテーマは「夏祭り」。事前に用意してきたものを並べ、お祭りムードで歓迎する。ここにいながら世界旅行が楽しめるミニエキスポは楽しい。日本のブースも評判であった。

ミニエキスポ後、生徒はディスコタイム。毎晩、何らかのダンスパーティがある。

ダンスが始まったのを見届けてから、教員も懇親の場を設ける。近くのバブへ。

けど生徒指導があるので、門限時には宿へ戻った。そこからは玄関脇のロビーで、各自が各国から持参してきた飲み物やスナックを楽しみつつ、夜の交流を楽しんだ。

主催校の校長は女性。記念品をお渡しした

◆9 月 1 日（火）　水泳、ｽﾎﾟｰﾂﾃｽﾄ、ｱｰﾄﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ②、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ②、ｽﾛﾊﾞｷｱﾀﾞﾝｽ

教会の鐘の音で目が覚める。朝からの Teacher's MTG では、前夜のミニエキスポで片づけが不十分だったことが指摘され、改めて「時間厳守」が強調される。この日もスケジュールはタイトである。

まずは水泳。全員必修で 50m を泳ぎ切る。泳法は自由だが制限タイムは男子が 47 秒、女子が 52 秒。

日本人は体育の授業で水泳を学ぶが、ケニアには「川で泳ぐことはあってもプールで泳いだことがない」（ロジャーさん）生徒もいる。クロールや平泳ぎも初めて見る。それでも皆と一緒に入水。5m 泳いでおぼれかけたところをスタッフが救け、背中に乗せて 40m 進み、最後の 5m を自力で泳がせる。できなくても挑戦することが大事だというメッセージである。

日本の生徒も得手不得手がある。クリアできなかった者もいた。

立派な市民プールだが、水はきれいとは言えない

スタッフのサポートで 50m を完泳！

体育館ではバスケットボール連続ボード当て。校庭では走幅跳と 60m 走（手前の走路）

水泳の次は、クーベルタン校にてスポーツテスト。いずれもテスト内容は事前に通知されている。

- バスケットボール投げ…バスケボードから、男子 460cm、女子 360cm 離れ、30 秒間連続ボード当て。
- 60m 走…男子 10 秒、女子 10.5 秒
- 走幅跳…男子 480cm、女子 350cm

水泳とクロスカントリーを含め、これらは全員必修である。標準記録に達しない種目があった場合、1 種目までは大丈夫だが、2 種目ある場合は再試験を受け、3 種目以上ある場合はクーベルタン賞が得られないとされていた。しかし実際は再試験の機会が設けられることはなく、2 種目までは大丈夫となったようだ。

日本人では 3 種目失敗した者がいて、その生徒だけクーベルタン賞を得ることはできなかった。けっこうシビアである。

昼食後、すこしゆっくりしてから 2 度目のディスカッション。ホテルアカデミー周辺や近くの公園など、青空のもとで気分転換しながらのディスカッションとなった。

青空のもとでディスカッション

夕食後は 2 度目のアート・ワークショップ。少しずつ形になっていく。

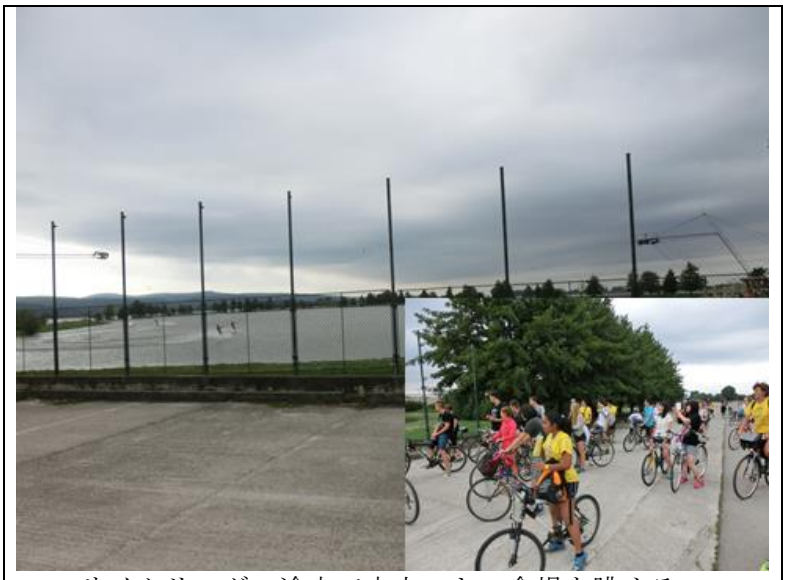
その後はホールに集まってスロバキアダンス。民俗音楽とダンスを楽しんだ。

アート・ワークショップでは、多国籍の生徒たちがともに一つのものをつくりあげていく。
フォーラムバナーも徐々に形になってきた。

知識テスト、スポーツテストを終えた生徒たちは、重荷から解放されたかのようだった。

◆9 月 2 日（水）　ｻｲｸﾘﾝｸﾞ、ｱｰﾄﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ③、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ③、ｱｰﾄﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ発表会

この日は 2 グループに分かれ、サイクリングまたはウォーキングで散策する A グループと、水辺スポーツを楽しむ B グループに分かれた（9 月 4 日に交替）。日本チームは A グループで、全員がサイクリングを選んだ。自転車は学校に置いてあるものを借りる。おそらく「貸してもいいよ」と言ってくれた生徒の自転車なのだろう。



サイクリングの途中で水上スキー会場を眺める。
大迫力！　しかしこのあと事故発生のため中止。

ちなみにこの日は、スロバキアで新年度が始まる日。ホテルアカデミーでもクーベルタン校でも、朝はセレモニーが行われていた。9 月 1 日が祝日（憲法記念日）なので、2 日から始まるようだ（そういえば前日、町の中へ行ってみるとやたら賑わっていた）。

自転車で回ってみると、ここが水量豊富な川に囲まれ、さらにダムがあって人造湖があるというのがわかる。その人造湖で、カヌーや水上スキーを楽しむというのが B グループの活動で、これを我々は 9 月 4 日に体験することになる。

途中、B グループが水上スキーをやっているところを見た。スキーのリフトのようなものが湖をぐるぐる回っている。そこからつながっているバーを両手でつかんで、水上スキーを履いて楽しむというものである。猛烈なスピードが出ていたので「怖がる生徒もおるやろなあ」と思ってみていた。

バーから手を放してしまったロシアの生徒が大転倒し、大怪我をして救急車で病院に運ばれ、そのまま入院、帰国を余儀なくされる事故が起きたのは、我々が通り過ぎたすぐあとだったようだ。幸いロシアの生徒は後遺症も残らず無事だったようだが、こうした事故が一番恐ろしい。この日の教師 MTG では、議論の末、水上スキーをやらないことを決定した。

午後はディスカッションとアート・ワークショップの 3 回目。夜に発表会があるので、仕上げに余念がない。

少し時間ができたので、私は町中を散策したりお土産を購入したり、ゆったり過ごすことができた。ホテル近くのサッカースタジアムの存在を知ったのもこのときである。

アート・ワークショップは 3 回しかなかったが、いずれのグループもすばらしいパフォーマンスを示してくれた。フォーラムバナーが掲げられるホールで、歌あり、踊りあり、演劇あり。クーベルタンの「パズル」も、短時間でここまでできるのかと感心した。

日本の生徒たちも各グループで存在感を示してくれた。それぞれの個性が発揮でき、多国籍の仲間とのつながりが生まれるこのスタイルはよい。指導に当った先生は大変だったろうが、教師の個性も発揮できる。今後も続けて行くべきだろう。

Teachers Meeting の様子。こちらも多国籍

夜の教師 MTG は、アートパフォーマンスの素晴らしい成果を確認するとともに、水上スキーにおける事故と今後の対応をめぐって重苦しいムードになった。挑戦させたい、しかし安全性は保障されなくてはならない。どこに着地点を求めるか。難しいところである。

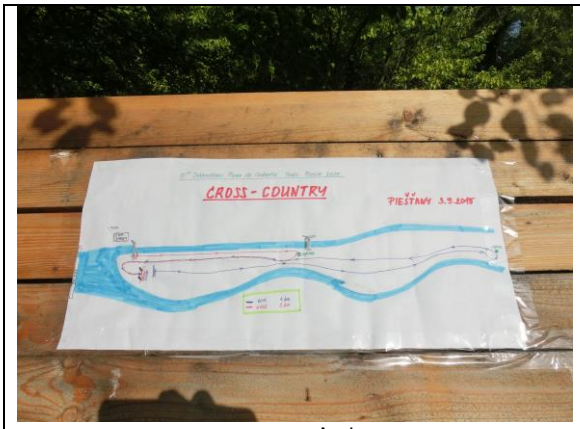
◆9 月 3 日（木）　クロスカントリー、古城観光、市街パレードとパフォーマンス

スポーツテストの最終種目はクロスカントリー。川の中州にある男子 4km、女子 2km のコースは、見ているには気持ちの良いものであった。

クロスカントリーを終えてホテルへ戻り、荷支度をし、大型バスで移動。スモレニース城の観光である。中世の風情を残す中欧の古城を楽しむことができた。

全員の集合写真もここで撮った。なかなかよい写真である。

クロスカントリーのスタート風景



コース全容

ラストスパート！

参加者全員で（スモレニース城にて）

パレードは市庁舎からスタート

ピエスタニ市内を練り歩く

古城観光から戻り、夕食をとった後は、くつろぐ暇もなくパレードの準備。人口 3,000 人のピエスタニ市民にとっても、世界中から高校生が集まるこのフォーラムはビッグイベントである。ホテルアカデミーから歩いて市庁舎へ（そこはクーベルタン校のすぐ裏であった）。パレードのスタート地点である。そこから鼓笛隊の先導で、各国代表が民族衣装をまとって市内をパレード。道行く人と声をかけあいながら、公園内の会場へ。会場に着くころにはあたりは暗くなっていた。

各国が用意してきたパフォーマンスはいずれも印象深いものであった。市民がステージに上がってともに歌い、踊りを楽しむ参加型のものもあり、市民と一体化した時間だった。ABC 順でイタリアの次が日本の出番である。そろいの法被を着た日本の 7 名の高校生は、シェーンブルン宮殿でも練習した「ソーラン節」をきっちりやりきった。かなり好評で、マッチ・ウェンロック（イングランド）のジェフさん（実は校長先生）には「日本のパフォーマンスがナンバーワンだ。イングランドがその次」と言ってもらえた。

ホテルへ戻ってからもみな興奮気味。遅くまで生徒たちもにぎやかだった。

我々教師はいつものように、玄関ロビーで生徒の監視を兼ねながら、持ち寄ったもので飲み食いしながらひとときを過ごす。日本から持ってきた「柿の種」でひとしきり盛り上がった。

◆9 月 4 日（金）　カヌー体験とビーチ活動、閉会セレモニー、パーティ

あっという間の 1 週間も最終日を迎える。まずは 9 月 2 日と対になっているビーチ活動。前記のとおり水上スキーはなくなったが、カヌー体験をたっぷり楽しみ、ビーチバレーやサッカーなどを楽しむ半日となった。カヌーをしながらクーベルタン校の先生に、ちょっとえげつない話を聞いた。「あそこに見えるのは原子力発電所。この人造湖の水が利用されている…」。このことを日本の高校生に話したらビビっていた。

水上スキーはなくても、多様なビーチ活動を楽しんだ

昼食後はフリータイム。お土産を買ったり、荷造りしたりするのはもちろんだが、アートパフォーマンスをクロージングセレモニーで再演するグループはその準備がある。最後まで盛り沢山である。

参加賞は全員もらえるが、クーベルタン賞は全員がもらえるわけではない。日本チームも 7 名中 1 名が受賞できなかった。スポーツテストで 3 種目クリアできなかったためである。やむを得ない。

次回開催地のエストニア、オレフさん（実は校長）のクーベルタン校にバトンが受け渡された。

その後、ホテルアカデミーへ戻って最後のディナー。さらに教師は別室でフェアウェルパーティ。おいしいワインをたしなみながら、名残惜しいひと時を過ごす。

ひと寝入りしたらもう出発であるが、最後の最後までロビーで過ごしたのはよい思い出である。

◆9 月 5 日（土）　早朝に出発、バスでピエスタニ～ブラチスラバ～ウィーン、

5：30　起床。シャワーを浴びて荷造りの残り

7：00　朝食。ここでロジャーさんやオレフさん、ミラさんらとお別れ

8：15　バス発。隣の席はジェフさん。いろんな話をした。

9：45 頃　ブラチスラバ空港着。ここでギリシア一行（コスタスさんら）とお別れ。

※ピエスタニを出てすぐ、バスの車窓から原発が見えた（地図にも書いてあった）。それがオーストリアに入ると風景は一変する。林立する風車である。オーストリアは原発反対、スロバキアは原発受け入れ。こんなに近い国同士で方針が異なるのは、どうなのだろう。隣国の政策に関心を持たざるを得ない環境にあることを感じた。

10：50 頃　ウィーン国際空港着

※私と高校生 1 名の荷物が重量オーバー（25kg 以上）のため荷造りのやり直し。少し手間取ったが何とかしてもらえた。

11：20 頃　出国審査

12：45 頃　搭乗

13：10 頃　離陸

◆9 月 6 日（日）　7：00 成田空港着（約 11 時間のフライト）、解散

約 11 時間のフライトで、無事、成田空港着。朝 7 時頃だった。

荷物をピックアップし、分けられるお土産を分け、今後の課題を彼らに伝えた。

1）各自の感想　…　項目に沿って書く。原則として公開しない（公開する場合は本人の許可を得る）
2）各自の写真や動画　…　中塚がまとめる
3）日本語の報告書　…　公開を前提とするもので 7 人で作成。写真や感想があるのがよい
4）英語の報告書　…　3）を英訳したもの。11 月末の CIPC 理事会で日本チームの高校生レポートとして田原氏が紹介する

2016 年 4 月 10 日時点で、3）が完成に至っていないのが残念である。

空港には多くの関係者が来られていた。土産話をたっぷりしてほしい。そしてこの成果を、まずは身の回りの人たちに伝えていってほしい。

帰宅してたまっている新聞を見てびっくりした。しばらく日本の情報に触れていなかったからなのだが…。

Ⅴ．感じたこと、考えたこと

今回初めて 7 名のフルメンバーで参加することとなって感じたことがいくつかある。

まず、「準備が大変だった！」。選考を兼ねた「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2015」は、まったくはじめての企画だったので、すべてにおいて手探りであった。主催：CORE、共催：NPO 法人サロン 2002、後援：NPO 法人日本オリンピックアカデミー（JOA）、協力：日本クーベルタン委員会の枠組みづくりだけでも気を使う。だからこそ、30 名の高校生と多くのスタッフの協力を得て、2 泊 3 日の国内 YF を終えたときには、大きな満足感を覚えたものだ。

しかしそれからがまた大変。7 名の選考、事前学習、派遣のための体制づくり、各機関との連絡・調整、出し物や交流会の準備…。過去 2 回は勤務校の生徒だけだったのでまだよかったが、今回は集まる日を設定するだけでもひと苦労であった。だからこそやりがいがあったし、充実感に満ちていた。

次に、「7 名のフルメンバーはおもしろい！」ということを感じた。2 名であろうが 7 名であろうが、おもしろいことに違いはないが、今回の 7 名は学校も育ってきた環境も異なるおもしろさがあった。また、7 名もいるとそれなりの勢力になるとも感じた。過去 2 回は、2 名参加のオブザーバースクール同士が小さく固まる傾向にあったが、今回はそういうこともなく、それぞれが堂々と振る舞えていたように思う。語学力やコミュニケーションスキルの影響もあるかもしれないが、それ以上に、自分以外に同国人が 6 名もいる安心感があったように思う。このあたりの心理面の分析もおもしろいが、現象面しては、それなりの存在感を 7 名の日本人高校生が出してくれて安心した。

ところで私にとってこのフォーラムは 3 度目であるが、毎回テーマを抱えて参加するようにしている。初参加の 2011 年（北京）は、「オリンピック教育が、世界でどのように展開されているのか」を見てくることがねらいであった。そして「そういうことなら日本ではすでにやっているよ」と思い、日本からの情報発信の必要性を感じた。一方、自国の歴史についての教育が日本では不十分であり、

嘉納治五郎の思想と功績について、オリンピック教育としてもっと取り上げるべきだと思った。

2013 年（リレハンメル）は、「日本で何ができるか」を考えながら参加した。クーベルタンスクールとなることよりも、クーベルタンや嘉納治五郎の思想を、日本の高校生に伝えるための国内 YF を開くべきだと感じた。シャイなようにみえる日本の高校生は、外部の人と接する機会が少ないだけなのではないか、海外の高校生と交流する前に国内の高校生同士が交流する場が必要なのではないかと考え、帰国後、さまざまな方面に働きかける動機となった。これがクーベルタンー嘉納ユースフォーラム 2015 につながっていくのである。

さて、今回の私のテーマは、「この営みをどう広げ、続けていくか」であった。このテーマの解決策はまだ見えてはいない。いまはそれぞれがばらばらにやっている段階のようにみえる。

高校生年代の「オリンピック教育」をどのように展開していくかを、長い目で考え、創り上げていく必要がある。2020 年の東京オリンピックは“きっかけ”であり“節目”であるが、オリンピックやパラリンピックがあるから「オリンピズムを教育に」と言っているのではない。オリンピズムはもっと普遍的な思想として位置付けられるべきである。

「オリンピック・パラリンピック教育」との表現は、競技会のための教育のようにもみえる。「オリンピック教育」という表現も本当は不要で、単に「教育」でよいのではないか。ただし“真の”教育である。

クーベルタンも嘉納治五郎も、“真の”教育を求めていたのではないだろうか。それは、心と体と知性のバランスのとれた人間の育成であり、世界平和につながる理念なのである。

以上

※月例会では質問やコメントを適宜いただきながら進行しましたが、本報告では質疑応答の内容も盛り込んだ形でまとめました。

補足資料１．スケジュール（事前通知されていた内容。ほぼこの通りであった）

10th INTERNATIONAL YOUTH FORUM

of Pierre de Coubertin Schools Piešťany 2015 Programme (Draft)

29th August - 5th September 2015

Saturday

The delegates arrive, check in at *Hotel Academy*, guided tour of Piešťany, selection of sporting activities at the school campus or the vicinity of Hotel Academy.

19.00 Dinner	Hotel Academy
20.00 First teachers´ meeting	Hotel Academy
20.30 Creation of the forum banner	Hotel Academy
23.00 Bedtime	Hotel Academy

Sunday

7.00 Morning warm up at the Váh river 7.30 Official teachers' meeting	volunteers
8.00 Breakfast	Hotel Academy
9.00 Group A - Lecture by Prof. Dr. N. Müller (English)/ Dr. I. Nikolaus (French) Group B – Tour of the Balneological Museum and the Spa Island	Hotel Academy Museum (PhD. M. Krupa) + Spa Island
10.30 Group exchange	ditto
13.00 Lunch	Hotel Academy
14.00 Improving your sporting abilities: –16.00 Paralympic sports and games / creation of the forum banner	Gymnázium PdC Hotel Academy
16.00 – 16.45 Planting of a Lime Tree	Gymnázium PdC
17.00 Opening ceremony introduction of the participating schools and the competitions of the PdC Award – flags	Fontána cinema – the Chairman of TSK, Mayor, the Head of Gymnázium PdC Program: folk group Máj, Music School Piešťany
19.00 Dinner	under the auspice of the Mayor of Piešťany at Hotel Academy
20.30 Teachers' meeting with the Mayor of Piešťany 20.30 Evening programme for students organized by volunteers	Hotel Academy
23.00 Bedtime	

Monday

7.00 Morning warm up	volunteers Hotel Academy Meeting Room
8.00 Breakfast	Hotel Academy
9.00 – 12.00 Final touches to the forum banner/ arts workshop1	Arts/Music teachers and volunteers Hotel Academy
13.00 Lunch	Hotel Academy

14.00- 15.30 Discussion topic 1	Gymnázium PdC
16.00　Knowledge Test	Gymnázium PdC
17.00-18.00 Preparation for the Mini-Expo	Hotel Academy
18.30 Dinner	Hotel Academy
19.30 Mini-Expo and disco	Hotel Academy
21.00 Teachers' meeting	Hotel Academy
23.00 Bedtime	

Tuesday

7.30 Breakfast	Hotel Academy
8.30 – 10.00 Swimming	Eva Swimming Pool
10.00 – 13.00 Technical disciplines – 60m sprint, long jump, basketball (chest pass)　groups A,B,C	Gymnázium PdC
13.30 Lunch	Hotel Academy
15.00 – 16.30 Discussion topic 2	Gymnázium PdC
17.30 Dinner	Hotel Academy
18.30 - 20.00 Arts workshop 2	Arts/Music teachers, Hotel Academy
20.30 Participant assembly, Slovak folk dance practice	Mr. Ján Horňák and Máj Folk Group, Gymnasium hall
21.30 Teachers´ meeting	Hotel Academy
23.00 Bedtime	

Wednesday

7.00　Warm up	volunteers
8. 00 Breakfast	Hotel Academy
9.00 – 12. 00 Improving your sporting abilities: **A – water skiing, beach volleyball, canoeing,** **B – in-line skating, cycling, walking**	PE Teachers and volunteers
13.00 Lunch	Hotel Academy
14.00 – 15.30 Discussion topic 3	Gymnázium PdC
16.30 – 18.30 Arts workshops 3	Arts/Music teachers, Hotel Academy
19.00 Dinner	Hotel Academy
20.00 – 21.30　Presentation of the results of the Arts workshop	Hotel Academy
21.30 Teachers' meeting	Hotel Academy
23.00 Bedtime	

Thursday

7.30 Breakfast	Hotel Academy
8.30-10.00 Cross-country race	on Lido (long island on the Váh River)
10.30 – 14.00 Excursion to Smolenice Castle	under the auspice of our district governor
14.30 – 17.00 Excursion to Trnava (our county town)	under the auspice of our district governor
18.00 Dinner	Hotel Academy
19.00　Parade through the town (flags) and performing of dances from participating countries	Winterova Street, pedestrian zone, music pavilion -　Mušla
23.00 Bedtime	

Friday

7.00 Warm up, Teachers´ meeting	volunteers Hotel Academy meeting room
8.00 Breakfast	Hotel Academy
9.00 – 12.00 Improving your sporting abilities: **A – in-line skating, cycling, walking** **B – water skiing, beach volleyball canoeing** 9.00 Retake of failed/uncompleted disciplines	PE Teachers and volunteers
13.00 Lunch	Hotel Academy
14.00 Preparation for the closing ceremony/ free time	
16.00 – 18.00 Closing ceremony with guests of honor, announcing of the debate group results, introduction of the upcoming YF	Fontána Cinema, provide translations
19.00 Dinner	Hotel Academy
19.30 Farewell party	Hotel Academy
20.00 - 21.30 Teachers' meeting Exchange on the co-operation in the Network of Coubertin Schools in the future	Hotel Academy
24.00 bedtime	

Saturday

8.00 Breakfast

Departure

補足資料２．アート・ワークショップ概要および日本の高校生の選択

Nr.	arts workshop	leader	students' expert	short description of the workshop offered	max. number of participants	participant's name
1	Creation of the Forum banner	Mrs. Rosanna LaSpesa (ITA)	Gasco Giacomo or Poggio Martina	The participants are asked to create a big colourful banner, on which they paint something that represents their culture and nationality	one partici-pant per delega-tion	Furusato, Hikaru
2	Creation of a huge Coubertin Puzzle	Mr. Marek Bojakowski (GER 2)	Sabine Richter	The participants will create 24 canvas (2,00mx3,00m) in different techniques showing a large portrait of Coubertin, several famous quotations and symbols of the Olympic Movement	eight	
3	Panto-mime group	Mrs. Karin Lange (GER 1)		For participants who like to communicate with gestures. They will prepare a short performance on an Olympic topic.	eight	Hirata, Toumu
4	Internatio-nal mixed choir	Mrs. Nadežda Skačanová (SVK)	Kristián Briška	The participants will learn Slovak songs and also songs which represent each country.		Iuchi,Risako
5	Music: Songs, Rhythm and Body Percus-si on	Mrs. Ilse Hartl (AUT 1)	Isabel Scharfette r	The participants will rehearse an African round, a song and practice body percussion.	one partici-pant per nation **Please indicate your vocal part!**	Abe, Michihiko

Nr.	arts workshop	leader	students' expert	short description of the workshop offered	max. number of participants	participant's name
6	Modern dance 1	Julia Schmidt (AUT 2)		The participants will develop the Olympic ideas and values in an easy dancing performance/ interpretation	one partici-pant per nation	Takahashi,Yu i
7	Slovak traditional dances	Miss Ján Horňák (SVK)	Matej Malek	The participants will train Slovak traditional folk dances.	fifteen	Harashima, Momoka
8	Modern dance 2	Mgr. Stanislava Žáková (SVK)	Mária Zele-nayo vá	For the participants who like modern dances. They will dance different dancing styles.	one partici-pant per nation	Ikeda, Kazuma
9	Drama group	Radka Kováčová	Nina Vlhová	For participants who like acting. They will prepare a short performance.	max. 12	
10	Open category, Individual presenta-tions	Mgr. Ján Číž, Mgr. Daniel Domonkoš (SVK)	Juraj Jenčík	For students who can perform something extraordinary.		